

JMAM

一人ひとりの

GROUP

「自分らしさ」と歩む

2030

JMAMグループへ

VISION


●発行元

JMAM

株式会社 日本能率協会マネジメントセンター

〒103-6009 東京都中央区日本橋2-7-1 東京日本橋タワー
電話 (03)-6362-4800 WEB <https://www.jmam.co.jp>

Date of Issue : 2022.12



Society Changes, JMAM Changes.

社会が、変わる JMAMが、変わる

いま、世界は大きく変わりつつある。

サステナブルな社会への転換、先進国での少子高齢化、
テクノロジーの進化による、あらゆるモノのデジタル化、
ミレニアル・Z世代の台頭、国や地域、企業のボーダレス化…

いままでの常識が書き換えられていく時代。

目先のことばかり見ている企業がイノベーションを起こすことはできない。
改善であれば、目先の課題に取り組むことで成し遂げられるかもしれない。

しかし、画期的なイノベーションはビジョンがあってこそ生まれるもの。

2030年、世の中はどうなるのか？そのとき、JMAMはどうあるべきか？

現在を表す5つのメガトレンドを見ていきたい。

2015年国連サミットで採択された「SDGs」。世界的な意識の高まりは、サステナブルでない商品やサービスは選ばれない時代の到来を告げている。いまだけではない、未来につながるアクションはますます不可避になっていくだろう。

World Megatrends

01 世界的潮流は、サステナブルな社会へ



World Megatrends

02 人口動態の変化は、経済トレンドを大きく変える

先進諸国では少子高齢化、一方新興国では人口爆発。世界中で進行している人口動態の変化は経済トレンドに大きな影響を及ぼしている。経済力のあるアクティブシニアや、新興国での中間層の拡大は消費の流れを変えていくだろう。

World Megatrends

03 テクノロジーの進化で、あらゆるモノがデジタルへ

個人の生活から、国や企業まであらゆるシーンでのデジタル化が進んでいる。IT技術を活用したDX(デジタルトランスフォーメーション)は急速に進展し、デジタル活用のスキルはさまざまな場面で必要不可欠なものになるだろう。

高いITリテラシーを持ち「モノ」より「コト」を好む傾向の見られる世代が消費の中心になることで、これまでの価値観が変わる。プライベートの充実、社会問題への関心、多様な価値観の尊重などはますます大切になっていくだろう。

World Megatrends

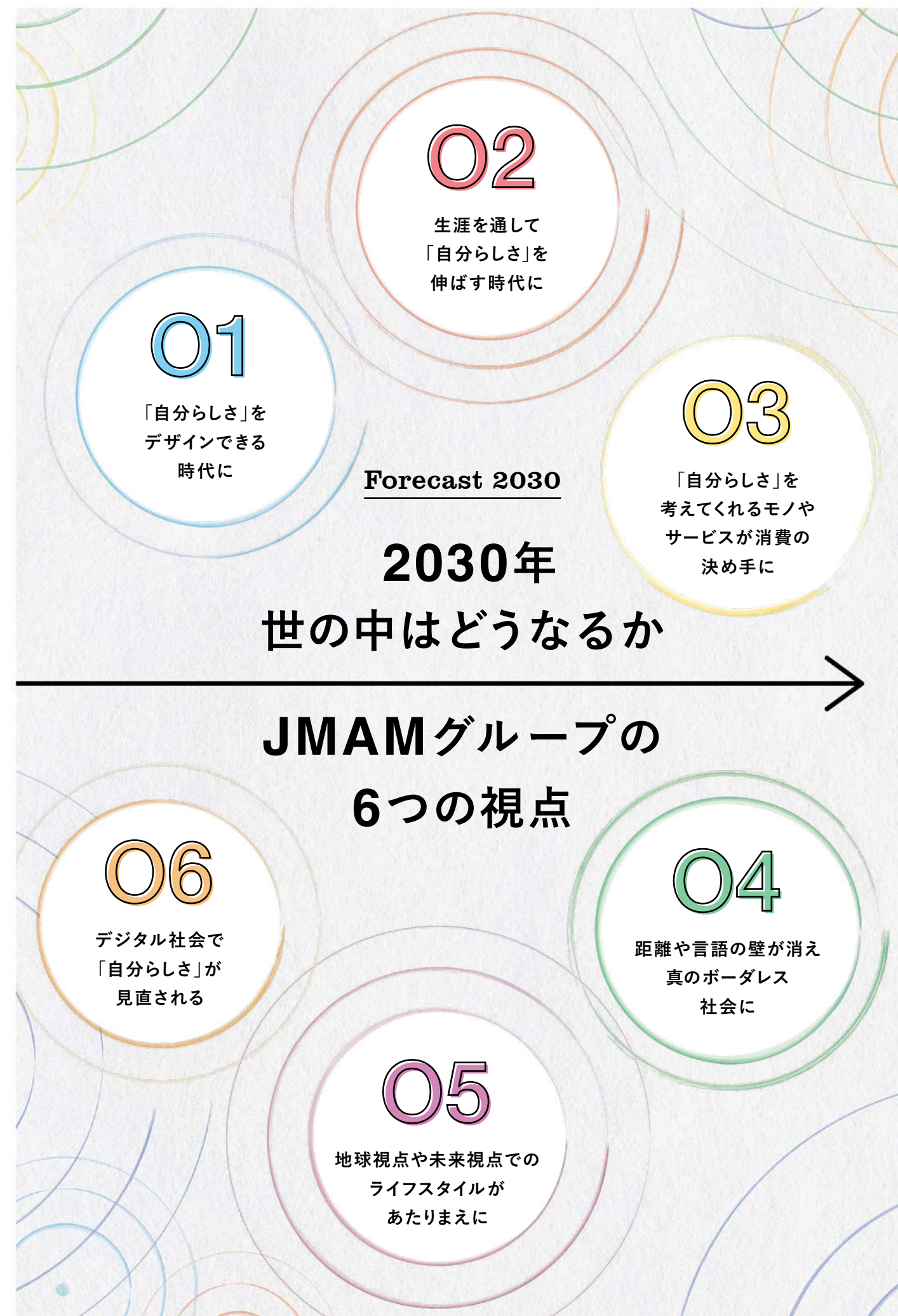
04 ミレニアル・Z世代が台頭、いままでの価値観は転換する



05 個人も国家も企業も、 本格的なボーダレス社会へ



テクノロジーの進歩は、時間や場所、言語の壁をなくし、真のボーダレス社会の到来を後押ししている。一人ひとりにさまざまな可能性が広がる一方、変化の速度が上がることで、常にスキルのアップデートが必要不可欠になるだろう。



01 「自分らしさ」を デザインできる時代に

どこに住むのも
何をするのも
会社に縛られない未来

たとえば、東京で会社員をしながら住所は宮崎県。
週末限定のキャンプ場を経営していて、平日はフル
リモートで勤務があたりまえ。



ジェンダー・年齢差はゼロ
何かを始めるのに
遅いことはない時代

やりたいこと・なりたいもの、その人の人生を生き
生きと過ごすために、性別・年齢に縛られること
なんてないのがあたりまえ。



ワークとライフの
バランスを好きな期間
自由に自分で決める

しっかり働きたいとき、子供と一緒に過ごしたい
とき、仕事量は自分で決めるのがあたりまえ。



02 生涯を通して 「自分らしさ」を伸ばす時代に

部活感覚で
誰もが新しいスキルを
習得する

常にいまの時代に必要とされるスキルを勉強して
変化に対応することを求めるのがあたりまえ。



大人から子供まで
お金のリテラシー教育に
注目が集まる

若いときから投資の勉強、家族でもお金の話は
タブー視されず、必要なりテラシーとして認知される
のがあたりまえ。



一人一社就社が終焉
必要な人材を
会社の枠を超えて募集

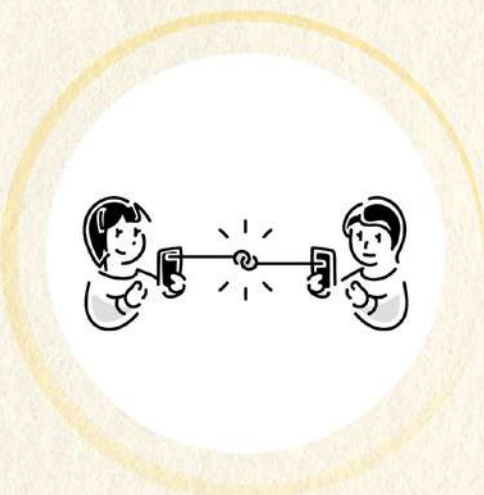
会社に所属することが安全な時代ではない。社会
が必要としているものを一人ひとりが感じとらなく
てはならないのがあたりまえ。



03 「自分らしさ」を考えてくれる モノやサービスが消費の決め手に

「自分らしく」ないものは 見向きもされない

食べ物も着るものも趣味もビッグデータから分析され、パーソナライズしたモノしか持ちたくない人が急増。消費の常識が大きく変わる。



「運命」はつくれる

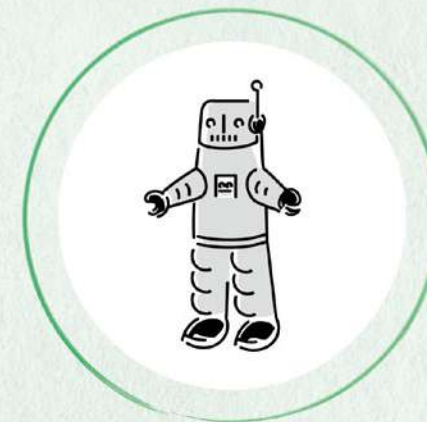
恋愛での出会い、共通の趣味を持った友人など、データのおかげで「運命的な出会い」があたりまえに。

全人類に「徹底個別指導」

勉強も運動も動画やデータを解析することで、その人に合った最高の勉強方法、練習方法をシステムが提案。



04 距離や言語の壁が消え 真のボーダレス社会に

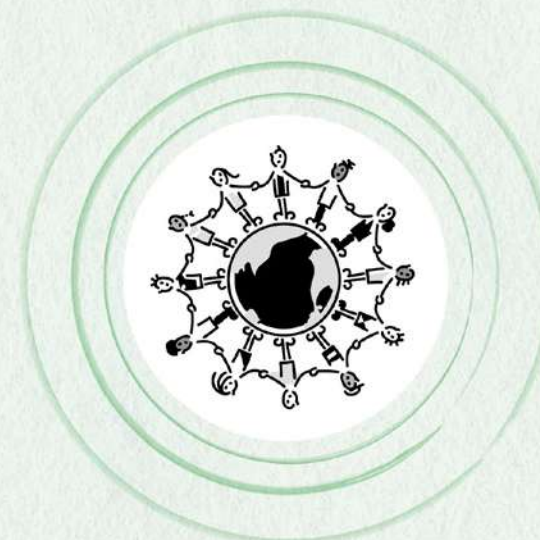


顔も名前も知らない 「最高の友人」ができる

メタバースとアバターでいつでもどこでも誰とでもつながり、プライベートを明らかにせずとも心を通わせられるように。

国の枠を越えた オープンイノベーション が急増

自動翻訳サービスの進化の加速で言葉の壁はなくなり、国の枠を越えて同じ志を持つ人が協力し合う。



ドローンや ロボット物流が主流に

過疎地など世界の隅々までの配達が可能になるようになり、どこに住んでいてもきちんとサービスを受けられるのがあたりまえ。

05 地球視点や未来視点での ライフスタイルがあたりまえに

地球規模の 新しい「あたりまえ」

LGBTQや、女性の議員数・企業の役員割合など
世界の「あたりまえ」に追いつくために日本でもさま
ざまな課題に取り組まなければいけない時代に。



未来の「誰か」に つながるアクションの拡大

環境を守り、自分たちの次の世代の暮らしを守る
ため、未来の「誰か」につながるアクションをする
ようになる。



環境配慮や SDGs意識のない 商品やサービスに「NO!」

努力義務から常識に変わり、それが無い商品や
サービスは消費されないのがあたりまえに。



06 デジタル社会で 「自分らしさ」が見直される

「リアル」だからこそその 価値が高まる

さまざまな体験がオンラインに置き換わったから
こそ、リアルでのイベントはより期待値が高まり、オン
ラインでは味わえない感情を求めるようになる。



ネットワークから 切り離される時間が必須に

常にネットワークにつながり、ネットワークの中
での時間が増えていくため、自分を取り戻すための
時間を取ることがあたりまえに。



シエスタやフィーカの 日本版ができていく

人間だからこそ集中できないときはゆっくりし、
気合いを入れるときはきっちりやり遂げる。メンタ
ルや身体的な問題を無理やり我慢することのない、
真のストレスフリーがあたりまえに。



2030年、 一人ひとりの 「自分らしさ」と歩む JMAMグループへ

いま私たちの社会には、多様な選択肢が広がっています。

楽しいことや、やりたいことを自ら選択し、自分らしく生きていける時代です。

一方、決められたルールが存在しないことで、

いまの自分にどこか物足りなさを感じていたり、自分らしさとは何か、

どんな人生を歩めばよいのかと悩み、立ち止まってしまう人もいます。

しかし「自分らしさ」とは、新しい挑戦を自らの意志で

積み上げることで見つかるものだと思います。

どんな小さな一歩だとしても、まずは「前に踏み出す」ことが大切であると考えます。

そんなこれからの時代に、私たちJMAMグループができることは何か？

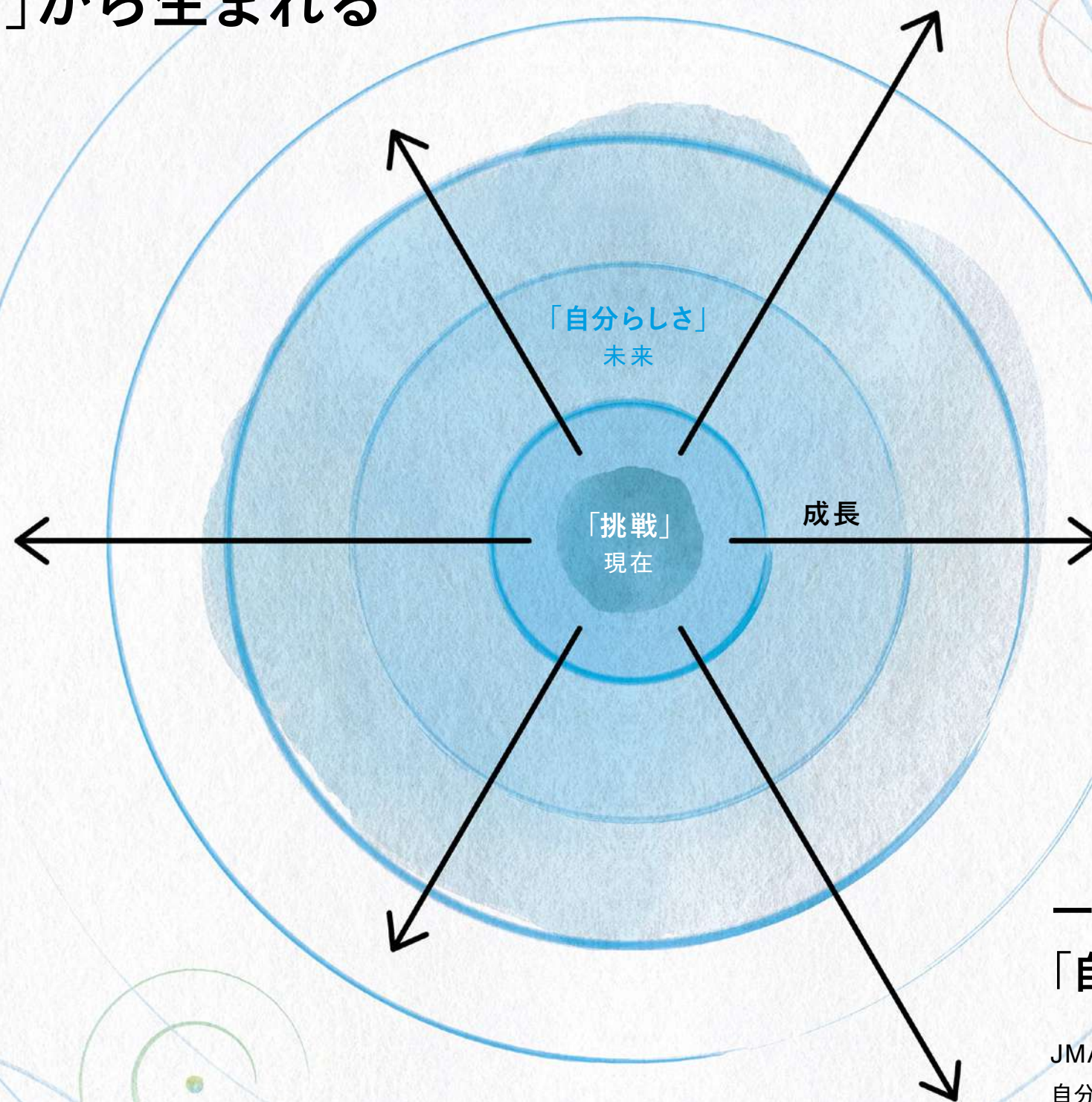
それは「人がありたい姿を見つけ、学び、挑戦する」

すべてのプロセスと一緒に歩むことだと考えました。

その歩みの先に、一人ひとりが思い描く「自分らしさ」が必ずあると、信じるからです。

2030年に向け、JMAMグループはすべての人の「自分らしさ」を支援していきます。

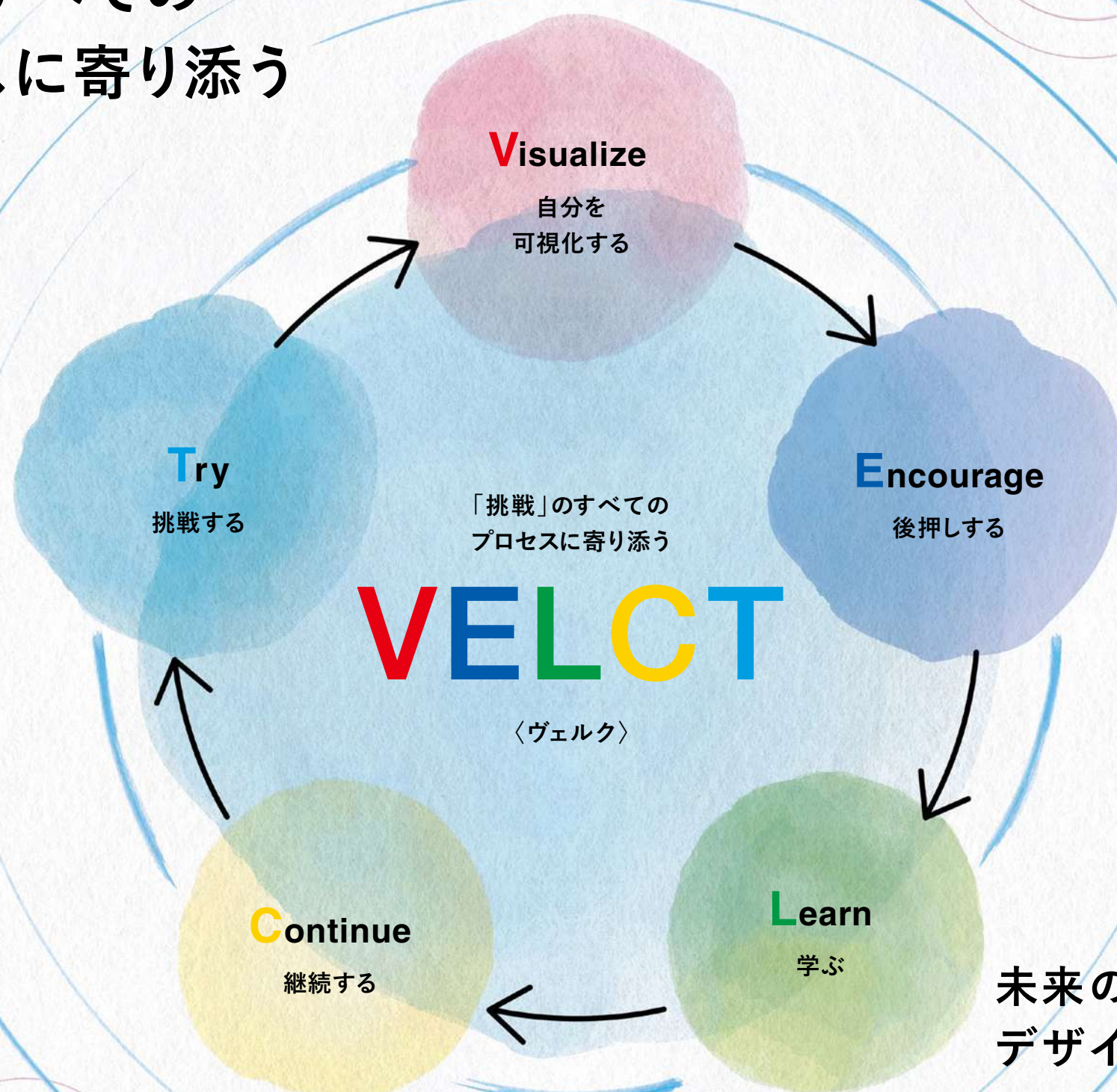
01 「自分らしさ」は 「挑戦」から生まれる



一人ひとりの 「自分らしい」成長に、寄り添う

JMAMは「成長に、寄り添う。」というパーパスを掲げています。自分の意志で進む方向を決め、新しい「挑戦」をすることが、未来の「自分らしさ」になる。その積み重ねこそが、成長の軌跡です。JMAMグループは「自分らしい」成長に、寄り添っていきます。

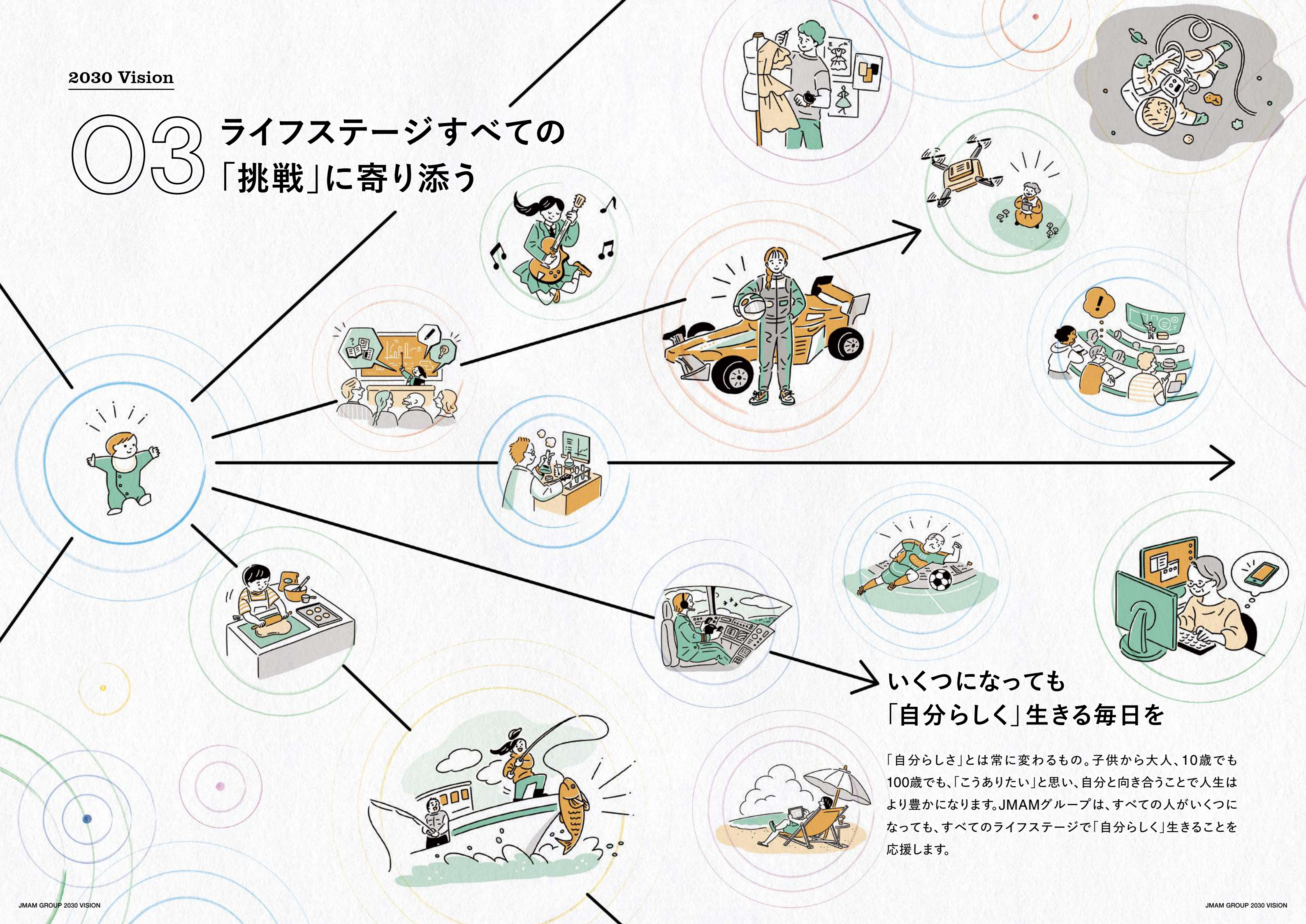
02 「挑戦」すべての プロセスに寄り添う



未来の「自分らしさ」を デザインできる社会に

未来の「自分らしさ」は常に新しいことに挑戦することで生まれます。一人ひとりが「こうありたい」という思いを大事にし、自分を可視化し、挑戦するまでのすべてのプロセス「VELCT(ヴェルク)」に寄り添うことで「自分らしさ」をデザインできる社会をJMAMグループはつくっていきます。

03 ライフステージすべての「挑戦」に寄り添う



いくつになっても
「自分らしく」生きる毎日を

「自分らしさ」とは常に変わるもの。子供から大人、10歳でも100歳でも、「こうありたい」と思い、自分と向き合うことで人生はより豊かになります。JMAMグループは、すべての人がいくつになっても、すべてのライフステージで「自分らしく」生きることを応援します。

2030年「自分らしさ」の時代に向けて いま、できること、やるべきこと

大切にしている 価値観・信念

理念に基づいた判断

Enjoy
Your!
Growth!

企業理念を判断の拠りどころとし、「成長に寄り添っているか」を基準に判断・行動します。

徹底した顧客起点



一人、一社の声も必ず聴いて、答えを出す。徹底した顧客起点で新しいモノ・コトを生み出します。

対話文化



社内、社外を問わず対話を重視します。相手を理解しようとし、ナラティブなアプローチを大切にします。

+

成長したい 価値観・信念

失敗を恐れない挑戦心

「やりたい」が最優先

アジャイル思考

成長を支援する 事業・商品

手帳・カレンダー



望む未来に向かって充実した日々の時間をデザインしたいという気持ちに寄り添う。それがTime & Lifeデザイン事業です。

書籍



「成長を願うすべての人」に「わかりやすく、使える」書籍を届け、書籍を通じて人をつなげていく。それがBooks & Community事業です。

人材育成サービス



人が本来持つ「成長したい」という気持ちに寄り添い、自ら成長できる環境づくりに伴走するLearningデザイン事業です。

+

必要とされる 事業・商品

組織だけでなく

より「個」に

焦点を当てた

事業・商品の拡大

いまを支える 経営の基盤

全国への営業展開



日本全国の営業・スタッフのネットワークによりお客様の地域に密着した迅速なサービスを提供しています。

組織・個人双方への販路



組織(企業)向け、個人(ビジネスパーソン)向けの事業を展開し、多様な販路から幅広いお客様へアプローチしています。

多様なパートナーとの共創



産官学問わず、多様なパートナーと共創することで、自社だけではつくり出せない新たな価値を創造しています。

+

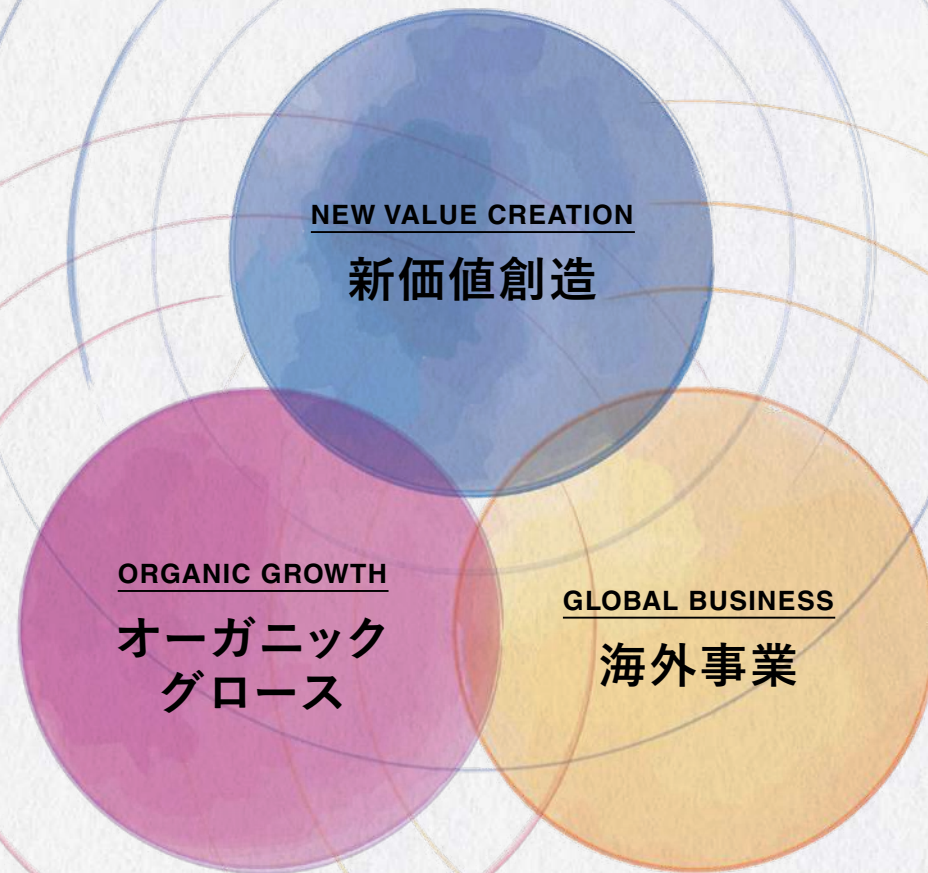
2030年を 支える 経営の基盤

プロフェッショナル
人材の拡充

M&Aを含めた
連続的な投資

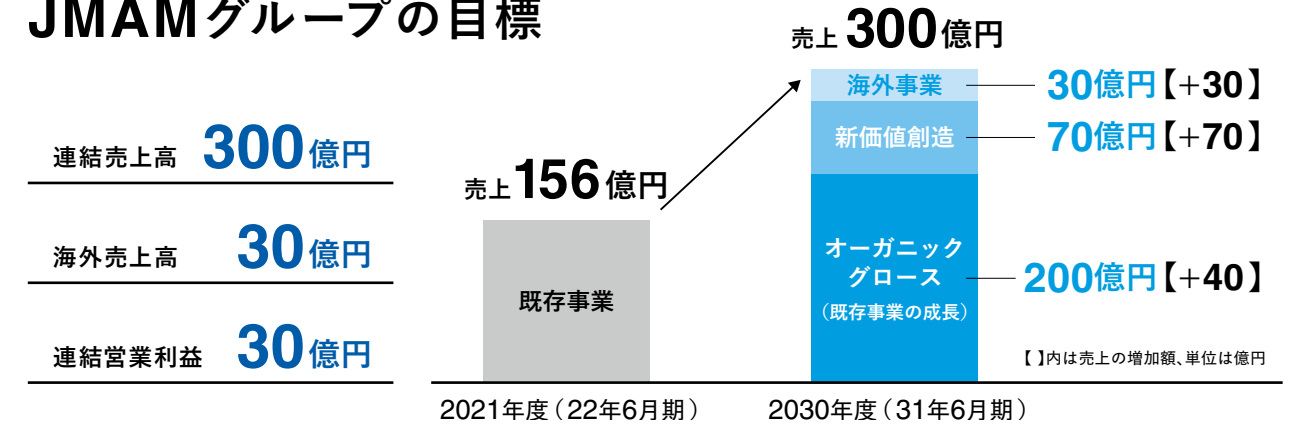
積極的な海外進出

「自分らしさ」の時代に JMAMグループ3つの成長戦略



「自分らしさ」の時代に生まれる、大きな成長機会。
新規事業を生み出し、既存事業をグローバルに拡大する。
私たちJMAMグループの「挑戦」です。

JMAMグループの目標



ORGANIC GROWTH オーガニックグロース

多様化する学習様式を組み合わせるハイブリッドラーニング、そして新たな段階に入りつつあるデジタルラーニング…。「自分らしさ」に寄り添う手帳や出版、人材育成事業。すべての人が一生を通してライフデザインする時代に、事業成長の可能性はまだまだ広がる。

時間(とき)デザインツール/ハイブリッドラーニング/新テーマ(DX/SDGs/健康経営)等
手帳/書籍/研修/通信教育/アセスメント/eラーニング等

NEW VALUE CREATION 新価値創造

「自分らしさ」の時代の到来に伴い、新たな事業機会がどんどん生まれてくる。国や地域、企業を越え拡大するニーズは、〈VELCT〉を体現する時間や学びのビジネスに、大きな成長機会をもたらす。2030ビジョンはその道標として機能する。

2030ビジョンを体現した事業・事業シナジーによる新規事業等
越境ラーニング/時間(とき)ラボ/学びラボ(toCサービス)/教員向け事業・サービス等

GLOBAL BUSINESS 海外事業

東南アジア諸国への人材育成のノウハウ提供を視野に、2021年5月タイに現地法人を立ち上げた。手帳事業では巨大な中国市場が急速に成長しつつある。出版事業では「マンガでやさしくわかる」シリーズの翻訳展開の準備が整った。海外事業は有望な市場になる。

手帳/書籍/版権も含む/JMAM Thailand 等

JMAMグループ2030ビジョンが できるまで

変化の予兆から2030年を未来洞察

自社の価値を全社アンケートで棚卸

未来×価値で2030年のありたい姿を構想

2030ビジョンの統合・言語化

「2030ビジョン」は社内公募に応募した79名から選ばれた
12名のプロジェクトメンバーが半年間にわたって構想し、
すべての取締役と対話を重ねながら、まとめました。
各メンバーに応募の理由や今後の目標を聞きました。

Q1：2030ビジョンプロジェクトに参加したときの思いや、意気込みは？

Q2：プロジェクトで、自分自身やチームの成果や成長したこと、苦労したことは？

Q3：これから「2030ビジョン」に基づき、取り組んでいきたいことは？

※所属組織は2022年12月時点



NPB事業本部
長濱 智之

「JMAM30周年に、大きいビジョンを。」

- A1：JMAM30周年の節目を迎え、自身も入社30年となり、2030年に向けて何をしたいかを考えたのが参加の起点です。「船を造りたかったら、人に木を集めてくれるように促したり、作業や任務を割り振ることをせず、果てしなく続く広大な海を慕うことを教えよ」。サン＝テグジュペリのよく引用される言葉です。船を造る前に、広大な海となるビジョンをみんなで描いてみようと思いました。
- A2：プロジェクトで、自身を含め総勢12名のチームメンバーと出会ったこと、その出会いが、苦労したことよりも大きく、実に自身の成長になりました。
- A3：JMAMグループの未来への飛翔となる「2030ビジョン」をしっかりと伝えていくこと、そして一人ひとりの「自分らしさ」をかなえる「時間×とき」デザイン事業の具現化に取り組んでいきたいです。

「世の中に、必要とされる会社になるために。」

- A1：目先の仕事も大切ですが、世の中に必要とされ、長く会社が存続するために新しいビジョンの策定に携わりたいと思いました。
- A2：サブリーダーとして全員を引っ張っていくこと、発散だけではなく収束を意識し、全員が共通理解を持てるアウトプットにすることを意識しました。さまざまな部署のメンバーとのプロジェクトのため全く目線が違うことも多く、お互いを理解し共通認識をつくることに苦労しました。
- A3：キャリア自律や、リスキング（DX）など2030年に求められる事業に関わっているので、よりJMAMのソリューションが多くの人に必要とされるようにしていきたいです。



ラーニングDX推進部
萩谷 俊之

「視野を広げて、新しい光を。」



NPB事業本部
中村 綾

- A1：プロジェクトへ応募した時期は視野が狭まっていたのか、仕事をしていても息苦しいと思ってしまっていたときでした。がんじがらめになっていた状態からちょっとでも小さな穴をあけて、新しい光が差し込んでこないかと思い、応募させていただきました。
- A2：そもそも「JMAMの事業とは？」というように、かなりマクロな視点で会社やひいては市場・社会といった、自分としては新しい視点でモノを見るきっかけになりました。苦労した点は、小さな言葉の違いで受け取る人によっては全く違う意味にとらえられてしまうのだなと思ったことです。商品を販売している時点でも注意はしていましたが、やはり「伝える」というのは難しいと感じました。
- A3：応募時のアイデアをまずは自分が小さく取り組んでみたいです。部門で行われている業務もプロジェクトもなかなか部間ですら見えづらいつ感じているので、それをオープンにして業務でも風通しのよい状態をつくりたいです。見たいと興味を持った人が、実際その業務は何をやっているのかがわかりやすい状態を目指します。興味を持つ・好きだと思ったことに取り組む＝「自分らしさ」の形成の一助になると考えています。

「大きな転機に、自分ができること。」

- A1：コロナ禍になり、事業環境が大きく変化し、競争が続々と出現する中で、自らの業務・ミッション以外に、成長の踊り場・大きな転機に直面する会社のため、小さくても自分にできることはないだろうか、という気持ちでした。
- A2：あらためてJMAMには多様なノウハウ・リソースがある、と認識できました。また、「何かを成したい」という思いを持つメンバーと、オフィスとは異なる場で率直な議論・意見交換を行うことの楽しさと難しさ、これを通じて自分自身のあり方を見つめ直すことの大切さなどを実感することができました。自分自身が良くも悪くも自らの経験や想いに助けられ、一方で縛られていると感じました。
- A3：「自分らしさ」をデザインする商品・サービスや企画提案を考え続けること。この活動・経験・挑戦などを通じて、自分自身の「自分らしさ」をデザインする意識を持ち続けたいです。



東日本事業本部
野本 敦史



出版事業本部

多田 奈穂子

「2030年、こんな世界になったらいいな。」

- A1:**面白そうだなという気持ちと、こんな世界があったらいいなという夢見がちな気持ちで応募しました。
- A2:**会社の未来予測にあたりフォアキャストとバックキャストの手法で考えることはとても勉強になりました。他部署の素晴らしい人達に出会えたのも大きな宝です。2030ビジョンでたどり着いた「自分らしさ」「挑戦」というキーワードはプライベートでも大事にしたいです。
- A3:**部署を横断するような取り組みを増やしていきたいと思っています。

「プロジェクトへの参加が、自分の成長に。」

- A1:**当時まだ入社してすぐだったこともあり、JMAMがどんな会社かわからずに、興味半分、チャレンジ半分で参加を決めました。加えて、これまでの経験から入社直後のタイミングで会社のよいところ・課題を知る上ではこういったプロジェクトに参加するのが近道だと考えていた点もあります。そういった意味では、当時の決断はいま考えても間違っていなかったと思っています。
- A2:**プロジェクトに参加したことこそが、自分の成長につながったと実感しています。また、いろいろな方とJMAMの未来についてお話しできたことは大きな経験だったと思います。
- A3:**2030ビジョン内でも新事業を考えるフェーズがあり、新事業については今後も考えていきたいです。またこのビジョン策定を通じて、見えてきた部分もあり、今後は社内の活動にも積極的に参加していければと思います(まずは社内副業制度に手をあげました)。



ラーニングDX推進部

山田 由美子

「ビジョン策定で、効率的な改革を。」

- A1:**2030年に向けて、JMAMがどんな進化をしていくのか、全社の指針となるビジョンが策定されることで、個別に奮闘するだけでなく、効率的に会社全体の改革が進むようになる。そんな可能性のあるプロジェクトに参画することで、自分が関わるサービス、事業を最前線に変えていければと思います、参加いたしました。
- A2:**各事業から参加されている異なる背景のあるメンバーと深い議論を続けることにより、個人個人が考えているだけでは出なかったアイデアが生まれたと思います。「挑戦」という言葉に対するそれぞれの感じ方が異なって議論が生じたのも、振り返れば楽しい思い出です。自分の意見に固執せず、さまざまなメンバーの意見を聞くことによって得られる発展性、楽しさを知ることができました。
- A3:**「自分らしさ」と歩む、というメッセージを出しています。私はサービス開発、システム開発・保守運営に携わっていますので、担当しているサービスやシステムで、より個人に寄り添う仕掛けを考えていきたいです。

「世の中が大きく変わる中、JMAMも変革を。」

- A1:**世の中の環境が大きく変化中、JMAM自体やJMAMが提供する価値も変化に合わせて変革をしていかないといけないという危機感をもって参加しました。プロジェクト発足時は前向きに将来のJMAMを考えることのできる熱いプロジェクトメンバーと一緒に議論ができることが楽しみで、とても期待していました。
- A2:**メンバーの中では古参の域に入っていたので、なるべくこれまでの事業に引っ張られすぎないように意識をしていました。リーダー長濱さん・サブリーダー萩谷さん含め、事務局の皆さんの進め方が素晴らしいこともあり、将来の変化を見据えつつ、JMAMらしいよいビジョンになったと思います。
- A3:**「人がありたい姿を見つけ、学び、挑戦する」すべてのプロセスと一緒に歩むこと、「自分らしさ」を支援するということが、具体的な事業としてどうあるべきなのか考えると同時に、自身もいままでとは違った新しい方向に「挑戦」していきたいと思っています。



出版事業本部

大塩 大



ラーニングDX推進部

升本 宏和



HRM統括本部

小笠原 萌

「まずは、自分にとっての自分らしさを。」

- A1:**事業部の壁を越えて、会社が一つになり、楽しくいきいきと働いて社員の笑顔があふれる会社にしたと思い参加を希望しました。
- A2:**メンバー全員が会社に対しての強い思いや考えを持っており、最終のアウトプットを一つにまとめるというのは苦勞した点だと思います。そのプロセスの中でも、議論をする中で人によって同じ言葉でも、意味の捉え方が違ったりしたことも多々ありました。とことん議論をして、コンセンサスをとっていくプロセスは、非常に実りのある時間でした。
- A3:**まずは、自分にとっての「自分らしさ」を考えたいです。「自分らしく」ある自分の未来の姿を想像し、夢を描いて、将来への道筋をつくっていききたいです。2030ビジョンとともに、自分の描いた夢を前に踏み出せるようにしていきたいと思っています。

「想像可能で達成可能、共有の旗印を。」

- A1:** JMAMの未来の事業成長に向け、社員が想像可能で達成可能な共有の目標をつくりたいと考えました。
- A2:** 当社の価値を再評価するなどのアプローチは、自分たちを見つめ直す意味でとてもよい取り組みでした。もう一歩、スクラップ&ビルドまでの踏み込みができれば良かったと思ひ、その点は心残りではありましたが。
- A3:** 何をいつまでに、どのように変えるかを明確にして打ち出すことです。それが私たち自身の成長の旗印になるからです。



人事部

徳升 知來



越境ラーニング事業部

佐久間 嵐

「さまざまな挑戦を、あちこちで。」

- A1:**変化を歓迎し、「挑戦」を推奨するJMAMの機運は結構好きなので、2030年もこの会社で働いているとしたら「わくわくするような目標に向けて、大小さまざまなチャレンジがあちこちで沸き起こりつづける状態を目指したい」という想いがありました。
- A2:**さまざまな年代や異なる部署のメンバーが集って議論を重ねたからこそ、一面的でなく多面的にJMAMという会社を捉えたいというビジョンになっていると思います。また、その過程においてはどのようにプロジェクトを進めるのか、まったく形のないところから進むべき道筋を照らし出してくださったプロジェクトリーダーの長濱さん・サブリーダーの萩谷さんの手腕なくしては成しえなかったものです。メンバーとして深く感謝しています。
- A3:**「自分らしさ」を体現するプロセスである(VELCT)を構成するサービスを立ち上げることに挑戦したいです。一人ひとりが「自分らしく生きていける時代」は、逆に言えば「自分らしさがわからずに困ってしまう時代」ともいえます。私もそんな社会の中のひとりとして、社会の共感を生むようなサービスを実装することで、ビジョンの実現を目指したいと思っています。

「JMAM社員の気持ちを、もっとポジティブに。」

- A1:** JMAM社員の気持ちを、自分含めて少しでもポジティブにできることに取り組みたくて参加しました。
- A2:** チームとしてはステートメントを最後の最後までつくり切ることができたことが成果、に尽きるのではないかと思います。自分を除いたプロジェクトのメンバーに対してはポジティブな感情しかなく、このような未来をつくりたいという人たちと一緒に活動ができた期間は宝物だなと感じました。また、一緒に進めていく中でそれぞれの強みを感じ、自分自身が足りていないところを顕著にしてくれて非常にありがたいと感じました。
- A3:** 周りの社員、顧客にステートメントの意図や検討プロセスを伝えていくことにまずは取り組みたいと考えます(事業は2030ビジョン関係なくやりたいときにやる)。社外に対してもこの取り組みを伝えることで、JMAMブランドの向上に加え、そのような活動をしてきた営業であれば違う角度で物事を考えることができるのでは? と思ってくれるはずなので、営業活動の助けとしても積極的に活用していこうと思います。



東日本事業本部

國廣 勇人